

第5学年 道徳科学習指導案

日 時：令和3年11月4日(木) 第5校時

場 所：5年3組教室

指導者：中畑 頼枝

本時の授業の視点

視点1 考える必然性や切実感のある発問

- 「よし子とえり子のどちらが悪いですか？」と発問することで、よし子とえり子がそれぞれ自分本位な理解の仕方で行動してしまったことに気付かせる。
- 「よし子は待っている間、自分とえり子のどちらのことを多く考えていたでしょうか。」と発問することで、自分と異なる意見や立場を大切にすることはどういうことか考えを深めさせる。

視点2 物事を多面的・多角的に考えるための交流の在り方

- ハートグラフをオクリンクで共有することで、様々な考えがあることに気付き、他者の考えを理解しやすくする。

視点3 自己の生き方について考えることのできる発問と振り返りの在り方

- これまでの自分とこれからの自分に目を向けさせることで、本時で学んだ道徳的価値を自分の生活にどのように生かしていけるか考えさせる。

- 1 主題名 相手の立場もたいせつに(B-相互理解、寛容)
- 2 教材名 「すれちがい」(「小学道徳 生きる力5年」日本文教出版)
- 3 ねらい よし子とえり子のすれちがいの原因や、お互いを理解するために大切な気持ちを考えることを通して、自分と異なる意見や立場を尊重しようとする態度を育てる。
- 4 主題設定の理由
 - (1) ねらいとする道徳諸価値について

本主題はお互いを理解するために大切な気持ちを考えることから、自分とは異なる意見や立場を尊重しようとする態度を養うことをねらいとしている。より良い人間関係を築くためには、異なった意見や立場をもつ者同士が互いを尊重するだけでなく、自分も過ちを犯すことがあることを自覚して他人の過ちを許すことのできる寛容さと謙虚さが必要である。5年生の段階では、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また、この時期には、考えや意見の近い者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。そのような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが大切である。

(2) 児童の実態について

本学級の児童（男子14名、女子14名）は、道徳科の授業で学んだ価値観を生活の中で意識し、生かそうとする気持ちをもっている。また、一部の児童に限られるが、自分なりの考えを進んで発表しようとする意欲をもっている。1学期のふりかえりで行った心のクローバーチェックでは、「広い心」の項目は、「よくできる」と答えた児童は、11人、「できる」と答えた児童は15人であった。自由記述では、「もう少し友達の立場になって行動すればよかった。」「友達のことを考えて話したり、動いたりした。」と答えた児童がいた。学習や遊びの中で、友達と協力し合いながら取り組む姿勢が見られるが、時として他人の失敗に対しあからさまに落胆したり相手に対しての態度が投げやりになったりすることがある。友達と意見が分かれたときにも、自己中心的な見方や考え方に捉われ、相手の立場が理解できなかつたり、頭では相手の気持ちを考えようとするが、感情が抑えきれず、相手を責めたりする面も見られる。

(3) 教材について

本教材は、ピアノ教室に行く約束をしたよし子とえり子が、それぞれ自分本位な理解の仕方で行動してしまったために約束を守ることができなくなり、互いに腹をたててしまうという2人の日記作文を題材にしている。自分の立場や思いだけを優先し、相手の立場や状況を考えない登場人物から「自分と異なる意見や立場」に対する姿勢について考えることができる教材である。児童は、登場人物が相手のことをどれだけ考えているのかを考えることで、自分と異なる意見や立場を尊重することの難しさに気付くことができる。それとともに、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあると自覚して謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処することの大切さに気付くことのできる教材である。

(4) 指導の工夫について

- ・「すれちがい」とは、どのようなものか児童がイメージできるように、事前に「すれちがい」に対するこれまでの経験やトラブルについてアンケートをとる。
- ・登場人物の行動を整理しやすいように、「すれちがい」が起こったところほどの部分であるかという観点を示してから、事前に教材を読ませておく。
- ・教材の中では双方の都合や事情が読み取れるが、現実には一方の立場にしか立てない。そこで、登場人物がどのように行動すればよかったかを問うのではなく、すれ違いが起こったときの心情を考えさせることで、自分本位の考え方にとらわれることが、互いの行動の原因となつてしまったことに気付かせたい。
- ・相手の都合や事情が分からず、自分本位に解釈してしまうことを抑えるには、相手のことを「～かもしれない」と想像することが大切であり、相手に自分の都合や事情が伝わっていないかもしれないと想像することで、自分の考えをきちんと伝えようとするすることができる。登場人物がそれぞれ相手のことをどのように考えているかを問うことによって、相互理解のためには想像力が必要であることに気付かせたい。
- ・導入で「すれちがい」が起こったときの気持ちやその後の行動を問うことでこれまでの自分の考えを表出させておき、終末で「相手の立場も大切にするとはどういうことか」と問うことで、本時の学習を通しての「相互理解・寛容」に対する児童の考えの変容及び深化を捉えられるようにする。

5 本時

(1) 準備物 ワークシート・挿絵・タブレット

(2) 学習過程

展開	学習活動・学習内容	教師の手立て(○)と評価(◆)
つかむ	<p>1 「すれちがい」が起こったときの気持ちやその後の行動を考え、本時の課題を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すれちがい」の経験とその時の気持ち 	<p>○アンケートをもとに、「すれちがい」に対するこれまでの経験を想起させ、そのときの気持ちやその後の行動について、現段階の考えを聞く。</p>
／	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 相手の立場も大切にすると、どういうことでしょうか？ </div> <p>2 なぜ「すれちがい」が起こったのかを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すれちがい」があった点を整理 ・よし子の気持ち ・えり子の気持ち 	<p>○出来事をまとめたものを示すことで、2人の間に起こった「すれちがい」を整理する。</p> <p>○よし子とえり子の気持ちをおさえることで、それぞれの立場の気持ちに共感できるようにする。</p> <p>○よし子とえり子の気持ちをおさえた上で、どちらが悪いかと問うことで、2人がそれぞれ自分本位な行動をしていることに気付かせる。</p> <p>◆②〈発言・ワークシート〉</p>
深める	<p>3 「相手の立場も大切にすると、どういうことか」を考え、話し合う。</p>	<p>○待たされていたのは「よし子」であることに触れ、待っている間のよし子の気持ちを考えさせることで、「相手の立場も大切にすると、どのようなことが必要なか」気付かせる。</p> <p>○自分と相手のことを考えている割合を7つのハートグラフから選択することで考えを表出しやすくする。</p>
／	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【考える必然性や切実感のある発問】</p> <p>よし子は、待っている間、自分とえり子のどちらのことを多く考えていたでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・待っている間のよし子の気持ち(ハートグラフ・ふき出し) ・待たされたらだち ・相手を心配する気持ち ・「～かもしれない」という相手への想像 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【物事を多面的・多角的に考えるための交流の在り方】</p> <p>○ハートグラフをオクリンクで共有することで、様々な考えがあることに気づき、他者の考えを理解しやすくする。</p> </div> <p>○ハートグラフをもとによし子が考えていることは自分のことなのか、相手のことなのかを問うことで、待っている間に必要だった気持ちを交流させる。</p> <p>◆②〈発言・ワークシート〉</p>
まとめる	<p>4 自分の生活と関連づけて考える。</p>	<p>○自分と相手の割合がどうなればよいのか、ハートグラフに表すことで「相手の立場も大切にすること」に対する自分の考えを整理する。</p> <p>○本時の学習を通して、これまでの自分と考えがどのように変わったか、または深まったかを考えられるようにする。</p> <p>◆⑦〈発言・ワークシート〉</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【自己の生き方について考えることのできる発問】</p> <p>相手の立場も大切にすると、どういうことでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを想像する。 ・広い心で相手を許す。 	

6 評価


一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

② 自分と違う立場や考え方を理解しようとしている。


道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

⑦ 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

7 板書計画



えり子



よし子

すれちがい

◎相手の立場も大切にすることは、
 どういうことでしょうか。

相手の立場も大切にすることは、

- 相手のことがわからないときは想像する。
- 自分のことばかり考えない。
- 自分のことも伝えて、相手の話を聞く。
- 広い心で相手を許す。

えり子(赤)


- すぐに電話すべきだった。
- よし子はえり子に電話をしている。

よし子(青)

- 勝手に広場に行った。
- 急におつかいを頼まれたから仕方ない。
- えり子の話を聞こうとしない。

えり子(赤)

- 急に用事ができたのかもしれない。
- 何かあったのかもしれない。



事前アンケート

道徳アンケート

5年 組()

① 今まで誰か「すれちがい」があったことがありますか。

すれちがい…約束していたのに、待っていても相手が来なかったり、自分が行けなかったりしたことなど

ある ない

② 「ある」と答えた人で、具体的にどのような出来事でしたか。

2人の出来事

	よし子
<p>ふんとして横を割いた</p>	<p>約束…、やっぱりピアノ教室に行こう、また電話する</p>
<p>一人でピアノ教室に行く</p>	<p>ピアノの練習をしていた お母さんはおとなりに行ってた</p>
<p>広場に行く (えり子を待つ)</p>	<p>電話をかけた えり子はおつかいに行っている 2時間いつもの広場で待っていると伝言</p>
<p>母「いそいで行きなさい」 えり子「わあ大変」</p>	<p>おつかいをたのまれた 電話をかけた (てなかつた) スーパーに行く</p>
<p>広場に行く ピアノ教室に行く</p>	<p>「ごめんね、あの…」</p>

ハートグラフ (7つの中から選択)



ワークシート

③

自分(青)

今日の学習はどうでしたか。あてはまるところに○をつけましょう

しっかり考えた

新しく気づいたことがあった

これから大切にしたいことがわかった


③


相手(赤)

「相手の立場も大切にすると、

①

よし子とえり子のどちらが悪いですか。

よし子  よし子

えり子  えり子

③

よし子は、待っている間、自分とえり子のどちらのことを多く考えていたでしょうか。

よし子(青)

えり子(赤)

理由

えり子

よし子

④

すれちがい

五年()組()番 名前()

